

令和3年度 東浅草小学校授業改善推進プラン

○ 第1学年【国語科】

1 児童の状況及び実態

・単元テストより		
	平均点	
知識・技能	90.3	
思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	92.5
	書くこと	
	読むこと	94.0

【知識・技能】
知っている語句の量が少ないこと、長音（例：おかあさん）、拗音（例：きゃべつ）、促音（例：らっぱ）、撥音（例：どんな）などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を正しく理解して、文や文章の中で使うことに課題がある。

【思考・判断・表現等】「読むこと」の平均点が94点であることから、物語における場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えながら文学的な文章を読むことはできている。

【主体的に学習に取り組む態度】学習した言葉を用いて、自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすること、言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりする力が不十分な児童も見られる。



2 指導についての課題

【知識及び技能】 <ul style="list-style-type: none">日常生活の中で使いこなせる語句を増やし、確実に習得できるようにする指導。長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を正しく身に付けられるように、繰り返し読んだり、書いたりする指導。
【思考力、判断力、表現力等】 <ul style="list-style-type: none">相手に伝わるように、行動したことや経験したことなどに基づいて、話の順序の組み立てを考える指導。相手や場面などに応じて言葉を選んだり、適切に使い分けたりすることができるよう、日常生活の中での使用につなげる指導。
【学びに向かう力、人間性等】 <ul style="list-style-type: none">学んだことやできるようになったことなど、自分の成長に気付くことができるようにする指導。言葉の大切さを伝える指導。



3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none">学習内容が定着しない児童に対してはプリント学習だけではなく、タブレットでのeライブラリを活用した学習も取り入れ、楽しみながら、繰り返し問題練習に取り組ませる。学習した語句などを教室内に掲示し、言語環境を整えることで、国語に関する関心を高め、言語能力を向上させる。
【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none">友達と対話する機会を増やすことで、自分の思いや考えをもったり、それを相手と伝え合ったりすることができるようにする。自分の思いや考えを伝えることが難しい児童に対しては、話型を提示する。
【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none">自分の成長に気付かせ、できるようになったことを次の学習に生かそうという意欲をもたせるために、授業の終わりや単元の最後に、振り返りをする時間を確保する。言葉は自分の思いを伝えたり、相手の考えを知ったりすることができる大切なものであることが理解できるよう、読み聞かせの時間を週に1回以上設ける。

○ 第1学年【算数科】

1 児童の状況及び実態

・単元テストより

評価の観点	たし算	ひき算	長さ	学期末	平均点
知識・技能	99	97.5	83	97	94.1
思考・判断・表現	98	92		90	93.3

【知識・技能】単元テストの平均点が94.1点であることから、どの単元も概ね知識・技能は定着している。長さの単元では、長さ比べをする際に、端をそろえて比べるような直接比較はできるが、テープなどに長さを写しとって比べるというような間接的な比べ方は十分にできていない。

【思考・判断・表現】たし算、ひき算の文章問題では、問題文を読んで、その場面はたし算、ひき算のどちらの式になるかを考えて、答えを求めることが難しい。

【主体的に学習に取り組む態度】各単元の学習内容は定着しているが、単元で学習した内容を新しい学習で活用したり、日常生活に生かそうとしたりする態度が身に付いていない児童も見られる。



2 指導についての課題

【知識及び技能】

・数学的活動の充実を図る。

例：①10までの数の分解がスムーズにできる指導。

②比べ方などの基礎的な条件を理解させるために、具体物を用いた体験的な指導。

【思考力、判断力、表現力等】

・何を問われているのか、文章からしっかり読み取れるようにする指導。

・数を数直線や図に表して考えるなど、自分の考えを視覚化する指導。

・自分に合った問題を解く方法を見付けるための指導。

【学びに向かう力、人間性等】

・数学的な活動の楽しさに気づき、生活に生かそうとする指導。

・学習内容を振り返り、学習したことの意味や価値を実感したりする指導。



3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

・基本的な計算を正確に、素早く計算ができるよう、授業の始めにたし算、ひき算の計算問題を10問ずつ行う。

・児童の間違いの傾向を分析し、苦手な児童には、のびゆけの時間や放課後学習教室などを利用して、間違えやすい問題に再度取り組む。

【思考・判断・表現】

・文章問題では、大切どころ、質問しているところ、単位にそれぞれ線や印を引いて考えることを徹底する。

・児童がブロックなどの具体物を操作したり、数直線や図などを使ったりして、自分に合った解決方法を選んで、自力解決をさせる。

・理解できている児童は、困っている児童に教えたり皆に説明したりするなどの学び合いを行う。

・自力解決→ペア・グループ学習→友達と自分の考えと比べることで、自分が考えた解き方だけでなく、多角的に捉えられるようにする。また、自分が分かる解き方を選べるようにする。

【主体的に学習に取り組む態度】

・意欲的に取り組めるように、導入では、児童が興味をもつような具体物や解きたいと思わせるしかけを準備する。

・日常生活や他教科の学習の場面で、数や図形、数量、長さなどが活用できるように、その都度、数学的な見方とつなげて考える声掛け、問い掛けを行う。

・毎時間、単元終わりに、振り返りを行い、児童の言葉から大切な数学的な考え方を価値付け、今後に使えるようにする。

